

9 本年度指定共同研究

1) 看護基準の作成

部 会 長

松 家 豊

筋ジ患者の特殊性をふまえた「看護基準」の作成が10年を経た今日、内外から要望されていた、筋ジ臨床研究班の過去の業績を集大成するとともに共同研究として50年7月から51年にかけてその作成にあたった。全国施設の参加のもと作成委員を選出し作業をすすめた。委員施設と担当された主題は次の通りである。

刀根山（臨床看護）、南九州（基本的看護）、東埼玉（病棟管理）、徳島（患者管理）、鈴鹿（生活指導）、西多賀（看護機械）、下志津（その他、家族指導、在宅ケアなど）、

数次の委員会、編集会議を開催、班会議で報告を行い、全体的とりまとめは刀根山病院看護部で行われた。成書として刊行される。

この看護基準は筋ジ看護に対する一定の方向づけと共通した原則が示されたもので実用的価値の高いものである。「看護基準書」の目次を掲げ内容の紹介とする。

進行性筋ジストロフィー症看護基準

進行性筋ジストロフィー症臨床研究班看護部

会編

目次

I 疾病の理解

1. PMDの位置づけ
2. 病型分類
3. 症状経過
4. 治療のあらまし

II 看護管理 病棟の特殊性、病棟管理

- 1 構造と設備
2. 職員の業務
3. 病棟の運営
4. 患者の看護管理
5. 勤務者の心得

III 臨床看護 基本的看護 対症看護 看護技術

初期の看護、中期の看護、末期の看護

Ⅳ 看護機器

Ⅴ 生活指導

Ⅵ その他 在宅ケア、家族指導など

2) 入浴看護に関する研究

部 会 長

松 家 豊

筋ジ看護の中で、入浴の占める比重は大きい。また、各施設共通の課題で多大の問題をかかえているのが現状である。要は看護の中で負担を少くしそのことが医療全体のサービスに還元されることがこの研究の主眼である。

- 研究にあたり問題となっている点は、
- 1.患者の特性として変形、重症化、重い体重
 - 2.介助者の特性として熟練とか疲労
 - 3.作業条件で姿勢、作業の高さ、作業時間、移送方法
 - 4.設備とその環境
- などがあげられる。

共同研究参加施設は、八雲、岩木、西多賀、下志津、東埼玉、新潟、鈴鹿、医王園、再春荘、南九州である。

6つのサブテーマとそのとりまとめは次の通りである。

1. 入浴設備（西多賀）
2. 入浴介助（刀根山）
3. 入浴用具（下志津）
4. 介助者の検討（東埼玉）
5. 患者への影響（鈴鹿）
6. 入浴システム（徳島）

本年度の成果の要点は、

1. 重症者用のエレベートバスは変形をつよい患者では工夫がいる。そのために浴用担架の改良が行われた。（西多賀）
2. 介助方法についてはその問題点がアンケートにより詳細に指摘され、今後の研究の方向づけがなされた。（刀根山）
3. 入浴方法では依然、抱かかえの施設が多く、看護労力の投入が大きな負担となっていた、現状では機械導入は少なく、詳細な検討がのぞまれる。そこで抱かかえ、ベルトコンベアー、エレベートバスの3方式の検討が行われることになった。（徳島）

以上のほかに、51年12月3日、研究推進のために参加施設の研究打合せ会が開かれた。その結果、入浴の合理化のために介助を中心とした能率向上の方法、これに関連した設備、用具の問題、腰痛対策、重症者介助などを重点項目として今後、研究をつづけることになった。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

筋ジ患者の特殊性をふまえた「看護基準」の作成が 10 年を経た今日、内外から要望されていた、筋ジ臨床研究班の過去の業績を集大成するとともに共同研究として 50 年 7 月から 51 年にかけてその作成にあたった。全国施設の参加のもと作成委員を選出し作業をすすめた。委員施設と担当された主題は次の通りである。